

## 繋ぐプロジェクト～日中から～

創価大学 経営学部 経営学科 天谷ゼミナール

福岡賢一, 松尾まどか, 菊地健二, 小熊妙子, 花井秀一, 春山悠, 黒田清美, 汪卓林, 邱嘉立  
指導教員 天谷永

創価大学 経営学部 経営学科 天谷ゼミナール

私たちは八王子市の国際理解教育を推進するために、八王子市の学校に通う小学生と中国人留学生との交流の機会を作ることを提案する。1. 背景では私たちのプランの目的について述べる。2. 現状では八王子市における国際理解教育のプログラムと留学生の状況について述べる。3. 課題と解決策では、実際に行われている国際理解教育の課題を述べ、解決策を提案する。4. 提案では新しく提案する中国人留学生と小学生の交流について詳しく述べ、そのメリットについて述べる。5. まとめでは私たちの提案に対する期待と重要性について述べる。

キーワード：多文化共生, 国際理解教育, 留学生, 中国, 国際交流

### 1.背景

現在日本はグローバル化に伴い、在留外国人が増加している。そうした社会状況から、私たち日本人は多文化共生や異文化理解など、差異を受け入れることができるようになる必要があると考えた。差異を受け入れることができるようにするため、まずは日本人に身近である中国人の価値観や文化の違いを理解したいと考える。以上のことから国際理解教育を推進するための企画を提案したい。

### 2.現状

＜国際理解教育のプログラム＞八王子市は、本年から多文化共生プランを改定し、より活発に外国人留学生や在留外国人に支援を行っている。たとえば、外国人講師を小学校の授業に呼び、出身国について紹介してもらったり、留学生が小学校の英語の授業に参加したりするなどのプログラムはある。

＜留学生＞八王子市では外国人留学生の在籍状況は年々増加しており、2017年度において3,616人、そのうち中国人留学生の数は2,260人である。実際に本学の中国人留学生を対象にアンケート調査をした。留学生の回答人数は39人である。質問内容は2つあり、1つ目は「国際理解教育に関する、小中学生との交流活動に参加したことはあるか」について、「はい」と回答した人は14人、「いいえ」と回答した人は25人であった。2つ目は「もしこれからも小中学生との交

流活動を開催したら、参加するか」について、「はい」と回答した人は31人、「いいえ」と回答した人は8人であった。参加した人の理由として、「異文化交流がしたい」と回答した人が14人のうち11人と最も多かった。また、参加しなかった人の理由として、「このような活動を知らなかった」と回答した人が25人のうち15人と1番多かった。

### 3.課題と解決策

＜課題＞現状のプログラムから考えられる課題として、3つ挙げられる。1つ目に、留学生にどのようにすれば参加してもらえるのかということである。小学校で授業があるのは平日であるため留学生も授業があり、参加するのは簡単ではない。

2つ目に、留学生にどのようにして国際理解教育プログラムの情報を認知してもらうかということである。先ほどの中国人留学生を対象に行ったアンケート結果から、参加しなかった人の理由として最も多かった回答が、「このような活動を知らなかった」であった。外国人留学生に対して、学内の掲示板やポータルサイト、また国際課からの個人宛メールなどを通じてプログラムの情報を流しているものの、目を通さない留学生が大半である。

3つ目に、どのようにして小学生にとって浅い経験にならないように工夫し、交流時間をより増やすかということである。なぜなら、実際に行われたプログラム後

の、小学校のフィードバックにおいて「単発で継続性がなく、浅い経験で終わってしまった」「より多くの交流時間を持ちたい」という意見があったからである。

#### <解決策>

1つ目の課題として挙げた留学生にどのようにすれば参加してもらえるのかという課題は公欠や単位認定など留学生にとってメリットのある形にすることで解決できると考える。例えば留学生が定期的に交流会に参加すると国際理解の授業や日本語の授業の単位として認めることができるようにすると、平日であっても留学生が参加しやすい。

2つ目の留学生にどのように認知してもらおうのかという課題には、SNSとポスターを活用することで解決できると考える。ポスターにおいては各大学側に協力を得て、全留学生寮にプログラムを紹介したポスターを貼っていただくことで、より認知度は高まるのではないかと考える。

3つ目のどのようにして小学生にとって浅い経験にならないように工夫し、交流時間をより増やすかは、1回ではなく年間を通したプログラムを作ることで解決できると考える。例えば開催する頻度は2学期に1回、3学期に1回の2回をセットにして企画する。これによって、「単発で継続性がなく、浅い経験で終わってしまった」「より多くの交流時間を持ちたい」という課題も解決できるのではないかと考えた。

#### 4.提案

私たちが企画するプログラムは主に次の3つである。1つ目は中国語を使った企画である。中国語は日本語と同じ漢字を使っているため文字自体は似ており、小学生が親近感を抱きやすい。また、中国人に対して同じ文字を使っているという、共通点を見出すことができる。例えば漢字を使ったクイズを行い、中国人留学生から挨拶などを教えてもらう。

2つ目は、留学生から小学生時代の話や、日本に来て驚いたことを話してもらう。留学生の話聞いて今の自分と比べることができ、共通点や相違点を知ることによって差異を受け入れることにつながるのではないかと考える。

3つ目は小学生による校内案内である。これを行うことによって、留学生からの一方的なコミュニケーションではなく、双方向的な会話ができる。また、小学生側の企画があることにより、小学生が主体的になることができる。

#### 5.まとめ

これらの企画を定期的に行うことで、中国を身近に感じることができ、差異を受け入れられると考える。その結果、多文化に理解する人が増え、将来的に八王子市は中国人だけでなく、在留外国人にとって住みやすい街になっていく。そのためにも、小学生の国際理解教育を発展させていくことは非常に重要であると考え

#### 参考文献

##### 1.「国際理解教育に関する報告書」

[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/kokusaikyoikupuroguramu/p000095\\_d/fil/kokusairikaiprg-anketo.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/kokusaikyoikupuroguramu/p000095_d/fil/kokusairikaiprg-anketo.pdf)

##### 2.「日本、東京都、八王子市に関する各種統計データ」

[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/002/tabunkakyoseisuihyougikai/p000096\\_d/fil/20170519\\_04.pd](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/002/tabunkakyoseisuihyougikai/p000096_d/fil/20170519_04.pd)

##### 3.「日本、東京都、八王子市に関する各種統計データ」

[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/002/tabunkakyoseisuihyougikai/p000096\\_d/fil/20170519\\_04.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/002/tabunkakyoseisuihyougikai/p000096_d/fil/20170519_04.pdf)